

# 地図帳の統計資料から見えてくる ごみ減量化への取り組み

富山市立月岡中学校 桑谷 聡

## 1. 視点を変えて統計を読む

生徒が日本の統計の□(地図帳p.135~136)に目を向けるときには、上位の数値(赤字)とその都道府県に注目しがちである。ところが視点を逆にして下位の数値を見てみると、「なぜこの都道府県は数値が低いのか?」という疑問から、新たな課題が生まれてくる。

富山県の「1日1人あたりごみ排出量」(2002年)は939gと全国で最少の47位である(地図帳p.135~136)。これにはどんな要因があるのだろうかという問いかけから、公民的分野における地方自治の学習の一環として、地方公共団体の取り組みや地域の努力にふれ、地域住民の一員としての在り方を見つめる授業を展開していくことができる。

## 2. 全国最下位の謎を探る

富山県の「1日1人あたりごみ排出量」が全国最小であることには、以下のような要因が考えられる。

- ① 県内35市町村中、16市町村でごみ処理が有料化されていたこと(2002年当時)。
- ② 容器包装リサイクル法に基づく分別収集の全市町村における実施が、一定のごみ排出抑制効果をもたらしたこと。
- ③ 人口1人あたりの集団回収(廃品回収など)量が全国平均に比べて多いこと。

この他に、財団法人やNPO法人、ボランティア団体などによるごみ減量化や再資源化の積極的な取り組みも見られる。

## 3. ごみ減量から税金の節約へ

一方で、こうした取り組みはごみの処理費用の削減にもつながっている。富山市では1日におよそ314tのごみが発生するが、これ

を1人が1日に卵1個分(約60g)減らすと年間9200tのごみ削減となり、処理費用がおよそ3億8000万円も節約できるという。こうしたごみ減量化や再資源化が、税支出の削減という形で、地方財政改善への貢献につながることに気づかせたい。

なお、実際に939gや卵1個分(約60g)のものを量って生徒に持たせてみることも、容量や重さを体感させることに効果的である。

## 4. 統計順位の経年推移をどうとらえるか

ところで、翌2003年の「1日1人あたりごみ排出量」が最も少なかったのは877gの佐賀県で、富山県は滋賀県と並んで976gの41位であった(帝国書院HPより)。さらに2007年には986gで35位と、排出量・順位ともに後退している(「データで見る県勢」より)。都道府県の順位(=排出量)が変化する背景

都道府県	1日1人あたりごみ排出量(g) 2002年
北海道	1,357
青森	1,232
岩手	1,003
宮城	1,091
秋田	1,155
山形	1,010
福島	1,111
茨城	1,138
栃木	1,108
群馬	1,190
埼玉	1,020
千葉	1,069
東京	1,101
神奈川	1,156
新潟	1,171
富山	939
石川	1,103
福井	1,063
山梨	1,102
長野	1,064
岐阜	1,013
愛知	1,066
三重	1,056
滋賀	1,223
京都	1,053
大阪	1,210
兵庫	1,334
奈良	1,287
和歌山	1,015
鳥取	1,152
徳島	1,114
高松	1,006
岡山	1,041
広島	1,116
山口	1,204
徳島	1,056
香川	1,067
愛媛	1,136
高知	1,056
福岡	1,160
佐賀	981
長門	1,076
熊本	958
大分	1,318
宮崎	1,061
鹿児島	1,039
沖縄	996
全国平均	(1,131)

(平成19年度用)

の一つとしては、各都道府県での各自治体・各地域のごみ減量化や再資源化に向けた積極的な取り組みが年々進行していることが推測できる。またそうした点とともに、生徒には順位の後退が必ずしも取り組みの衰退を意味するものではないことも理解させておきたい。

授業の展開に際しては、こうした統計の経年変化もふまえながら、都道府県・市町村や地域社会が住みよい郷土づくりに日々、尽力している実態にも目を向けさせたい。